

2 学校教職員による自己点検評価 結果

評価項目	部署	2024 自己評価	今年度の改善取組	2025 自己評価	2024結果からの増減ポイント	来年度に向けた改善の方向性(案)
		「適切」、「ほぼ適切」の回答率	2024自己評価で、「適切」・「ほぼ適切」の回答率が70%未満だった部署があるなど、要改善と判断した評価項目に係る改善取組の内容	「適切」、「ほぼ適切」の回答率		2025自己評価で「適切」・「ほぼ適切」の回答が学校全体で70%未満だった又は2024比で10ポイント以上低下した評価項目に係る改善の方向性案
1 教育理念・目標	1)教育理念・目的・育成する人物像は定められているか	全体 96.7%		92.6%	-4	
	看護	90.9%		100.0%	9	
	検査	100.0%		87.5%	-13	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	100.0%		100.0%	0	
2)学校における職業教育の特色は何か	全体 96.7%		88.9%	-8		
	看護	100.0%		88.9%	-11	
	検査	88.9%		87.5%	-1	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	100.0%		100.0%	0	
3)社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	全体 76.7%		81.5%	5		
	看護	72.7%		77.8%	5	
	検査	77.8%		75.0%	-3	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	75.0%		100.0%	25	
4)理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	全体 76.7%	2025年7月に3ポリシーを作成しHP上にアップしている。	81.5%	5		
	看護	90.9%		77.8%	-13	
	検査	77.8%		75.0%	-3	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	50.0%		100.0%	50	
5)各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズにむけて方向づけられているか	全体 96.7%		85.2%	-12	就職先に対するアンケートや卒業生評価の依頼、職能団体の動向の把握に努め、得られたデータを教育目標の見直しに活用する。	
	看護	90.9%		77.8%	-13	
	検査	100.0%		87.5%	-13	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	100.0%		100.0%	0	
2 学校運営	1)目的等に沿った運営方針が策定されているか	全体 90.0%		81.5%	-9	
	看護	81.8%		66.7%	-15	
	検査	100.0%		87.5%	-13	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	87.5%		100.0%	13	
	2)事業計画に沿った運営方針が策定されているか	全体 90.0%		85.2%	-5	
	看護	81.8%		77.8%	-4	
	検査	100.0%		87.5%	-13	
工学	100.0%		50.0%	-50		
事務	87.5%		100.0%	13		
3)運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	全体 86.7%		81.5%	-5		
	看護	90.9%		66.7%	-24	
	検査	88.9%		100.0%	11	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	75.0%		87.5%	13	
4)人事・給与に関する制度は整備されているか	全体 80.0%	責任者会議を省き、連絡会議議事録を校長と共有し、メールで意見交換を行い、連絡会議で検討するように変更し、タイムリーに課題を共有し解決策を検討できるように変更した。校務運営会議について、WEB参加と欠席時の書面評決を求める運用に改め、学外理事によるガバナンスがさらに徹底されやすい仕組みとした。業務のマニュアル化は、学生からの直接入金方式の見直し、単位認定会議資料の共通化、副業兼業・教育外活動の取り扱い、事務処理規定・実務分担当の作成、振休の取り扱い、指定校訪問マニュアル、オープンキャンパス計画等を全体で共有し運営した。	74.1%	-6		
	看護	72.7%		66.7%	-6	
	検査	77.8%		75.0%	-3	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	87.5%		87.5%	0	
5)教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	全体 73.3%		77.8%	5		
	看護	63.6%		66.7%	3	
	検査	88.9%		87.5%	-1	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	62.5%		87.5%	25	
6)業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	全体 90.0%		77.8%	-12	学校運営に関する執行権限の明確化や会計処理の適正化を進めているが、教職員向けの研修や情報共有は十分とはいえない面があるため、研修やルールの再確認を行う。その際、当該業務の目的に即して理解を促すとともに、業務の実態や担当職員の意見が反映されるよう留意する。	
	看護	81.8%		66.7%	-15	
	検査	100.0%		100.0%	0	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	87.5%		75.0%	-13	
7)教育活動に関する情報公開が適切になされているか	全体 83.3%	広報担当を中心に、ホームページの更新、Instagramの更新等を実施している。日本看護学校協議会近畿ブロック研修会会場を本校で受け、検査と工学の実習室を見学してもらい教育活動を広報する予定である。財務状況や役員報酬支給基準をWEBで公開するなど情報公開を強化。	85.2%	2		
	看護	90.9%		77.8%	-13	
	検査	88.9%		87.5%	-1	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	62.5%		100.0%	38	
8)情報システム化等による業務の効率化が図られているか	全体 70.0%		55.6%	-14	出席管理などの電子化は学科によって差がある。学科の状況に応じて、課題を明確にし、優先順位をつけて改善に取り組む。その際、これまでの改善努力、できること・できないことを共有し、代替案も含めて検討する。検査学科では、LMS(学習管理システム)の導入も検討する。効果がある教育システムは全体で検討する。	
	看護	45.5%		55.6%	10	
	検査	88.9%		75.0%	-14	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	75.0%		37.5%	-38	
3 教育活動	1)教育理念等に沿った教育課程編成・実施方針等が策定されているか	全体 96.7%		88.9%	-8	
	看護	90.9%		88.9%	-2	
	検査	100.0%		87.5%	-13	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	100.0%		100.0%	0	
	2)教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	全体 93.3%		81.5%	-12	到達レベルと学習時間は明確にされている。カリキュラム評価を行い、必要に応じ、現在の学生の状況・水準に応じた教育内容や方法に改めていく。第二臨床検査学科(夜間)では、修業年限の短縮に対応した見直しを行う。
	看護	90.9%		66.7%	-24	
	検査	88.9%		75.0%	-14	
工学	100.0%		100.0%	0		
事務	100.0%		100.0%	0		
3)学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	全体 96.7%		85.2%	-12	全学科カリキュラム改正をして、基礎から応用まで段階的に学べるように体系的に編成したが、期待していた教育効果が得られていないこと、また、新入職員にカリキュラムの意図と効果を理解させられていないことが低評価の原因である。学生の理解度や学習負担の状況をさらに分析し、より効果的な学びを提供する。	
	看護	100.0%		77.8%	-22	
	検査	88.9%		75.0%	-14	
	工学	100.0%		100.0%	0	
	事務	100.0%		100.0%	0	
4)キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	全体 93.3%		92.6%	-1		
	看護	81.8%		88.9%	7	
	検査	100.0%		100.0%	0	
	工学	100.0%		100.0%	0	
	事務	100.0%		87.5%	-13	
5)関連分野の企業・関係施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	全体 80.0%		88.9%	9		
	看護	81.8%		66.7%	-15	
	検査	77.8%		100.0%	22	
	工学	100.0%		100.0%	0	
	事務	75.0%		100.0%	25	
6)関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	全体 83.3%		70.4%	-13	関係団体の協力を求め実習先の確保に努める。また臨地実習がしんどい学生が多く、実習で何を学ぶのか再確認し、実習の在り方を評価していく。	
	看護	90.9%		77.8%	-13	
	検査	77.8%		50.0%	-28	
	工学	100.0%		100.0%	0	
	事務	75.0%		75.0%	0	
7)授業評価の実施・評価体制はあるか	全体 86.7%		92.6%	6		
	看護	100.0%		100.0%	0	
	検査	88.9%		100.0%	11	
	工学	50.0%		0.0%	-50	
	事務	75.0%		100.0%	25	
8)職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	全体 80.0%		66.7%	-13	学校関係者評価の結果を学内で共有するとともに、学校教育法改正に伴う第三者評価義務化の動向など情報提供する。	
	看護	63.6%		55.6%	-8	
	検査	88.9%		87.5%	-1	
	工学	100.0%		50.0%	-50	
	事務	87.5%		62.5%	-25	

評価項目	部署	2024 自己評価		今年度の改善取組		2025 自己評価		来年度に向けた改善の方向性(案)		
		「適切」、「ほぼ適切」の回答率	2024自己評価で、「適切」、「ほぼ適切」の回答率が70%未満だった部署があるなど、要改善と判断した評価項目に係る改善取組の内容	「適切」、「ほぼ適切」の回答率	2024結果からの増減ポイント	2025自己評価で「適切」、「ほぼ適切」の回答が学校全体で70%未満だった 又は 2024比で10ポイント以上低下した評価項目に係る改善の方向性案				
3 教育活動(じゅぎょう)	9)成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	全体	100.0%			92.6%	-7			
		看護	100.0%			100.0%	0			
		検査	100.0%			87.5%	-13			
		工学	100.0%			50.0%	-50			
		事務	100.0%			100.0%	0			
		全体	96.7%				88.9%	-8		
	看護	100.0%				66.7%	-33			
	検査	88.9%				100.0%	11			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	100.0%				100.0%	0			
	11)人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	全体	70.0%	看護学科の教員確保はできた。臨床検査学科は2025年9月より新任教員が着任。臨床工学技士専攻科の教員は確保できていない。		51.9%	-18		指定規則等の要件を満たした教員の雇用に努めているが、欠員が生じている。パートタイムの教員で対応しているが、専門性や人数面で課題がある。また、病休や途中退職などにより職場環境や業務分掌などに課題が生じていると考えられる。教員確保への協力を関係団体等に依頼するとともに、職場環境や業務負担などについて教員の意見を聴き、課題を明確にして、必要に応じ調整するなど対応する。	
	看護	63.6%				44.4%	-19			
	検査	66.7%				62.5%	-4			
	工学	100.0%				0.0%	-100			
	事務	75.0%				62.5%	-13			
	12)関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供を確保するなどマネジメントが行われているか	全体	70.0%			59.3%	-11			
	看護	63.6%				77.8%	14			
	検査	88.9%				75.0%	-14			
	工学	100.0%				0.0%	-100			
	事務	50.0%				37.5%	-13			
	13)関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	全体	76.7%	2024年度にDX教育について学校全体で研修会を実施した。2025年度も12月に研修会を実施する予定である。看護学科は、教員養成講習会、専任教員交流会、京都府看護学校連絡協議会の研修等参加をしている。臨床検査学科は日本臨床検査技師会、京都府臨床検査技師会、日本臨床検査教育協議会等の研修会に参加している。日本臨床工学技士教育施設協議会の研修会に参加している。広報担当者が他校との連携によりWEBページ編集のスキルを習得した。		66.7%	-10		現状は外部研修の活用が中心で、参加状況は個人によってばらつきがある。研修参加状況を把握・評価する仕組みを整備し、内部研修やフォロー体制を充実させることで、全教員の資質向上を促す。根本的には、教職員に対し研修の提示や情報提供をしても、時間的余裕がなく参加しない現状があることから、研修に参加することができる人員体制の確保も必要である。	
	看護	81.8%				66.7%	-15			
	検査	55.6%				62.5%	7			
	工学	100.0%				50.0%	-50			
	事務	87.5%				75.0%	-13			
	14)職員の能力開発のための研修等が行われているか	全体	56.7%			59.3%	3			
	看護	63.6%				66.7%	3			
	検査	44.4%				50.0%	6			
	工学	100.0%				50.0%	-50			
	事務	50.0%				62.5%	13			
4 学修成果	1)就職率の向上が図られているか	全体	96.7%			96.3%	0			
		看護	100.0%			100.0%	0			
		検査	88.9%			87.5%	-1			
		工学	100.0%			100.0%	0			
		事務	100.0%			100.0%	0			
		2)資格取得率の向上が図られているか	全体	93.3%			81.5%	-12		国家試験合格率については全国平均を上回る実績を上げているものの、退学者も毎年出ている。学生の実態とカリキュラムがあていないと思われるので、カリキュラム評価が必要である。国家試験以外に、現場のニーズに応じた心電図検定等の資格取得支援を行っており、今後は、さらに多様な資格の習得に関する支援も検討する。
	看護	100.0%				66.7%	-33			
	検査	88.9%				75.0%	-14			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	87.5%				100.0%	13			
	3)退学率の低下が図られているか	全体	80.0%	看護学科では、学内実習時間を確保し、思考する時間の確保により精神的なゆとりも持てるようにした。また、内規の変更を行い、先修要件を緩和、不認定要件を削除した。		66.7%	-13			
	看護	72.7%				66.7%	-6			
	検査	100.0%				62.5%	-38			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	62.5%				62.5%	0			
	4)卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	全体	70.0%			48.1%	-22		医療機関等就職先での評価やキャリア形成の効果は学科の管理職教員によって一定把握されているが、加えて卒業生組織と連携し卒業生が定期的に集まれる機会を持つことで動向把握に務める。把握した情報を在校生の教育に活かせるよう、教職員や講師が共有できる仕組みを整える。	
	看護	63.6%				55.6%	-8			
	検査	77.8%				62.5%	-15			
	工学	50.0%				0.0%	-50			
	事務	75.0%				37.5%	-38			
	5)卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	全体	63.3%			44.4%	-19			
	看護	54.5%				55.6%	1			
	検査	88.9%				62.5%	-26			
	工学	50.0%				0.0%	-50			
	事務	50.0%				25.0%	-25			
5 学生支援	1)進路・就職に関する支援体制は整備されているか	全体	93.3%			92.6%	-1			
		看護	90.9%			88.9%	-2			
		検査	88.9%			87.5%	-1			
		工学	100.0%			100.0%	0			
		事務	100.0%			100.0%	0			
		2)学生相談に関する体制は整備されているか	全体	93.3%			77.8%	-16		相談体制は整備されている。課題や改善点を把握できるよう、学生のプライバシー保護に留意しながら、学科との連携を検討する。
		看護	90.9%				66.7%	-24		
		検査	100.0%				75.0%	-25		
		工学	100.0%				100.0%	0		
		事務	87.5%				87.5%	0		
	3)学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	全体	96.7%			92.6%	-4			
	看護	100.0%				100.0%	0			
	検査	88.9%				75.0%	-14			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	100.0%				100.0%	0			
	4)学生の健康管理を担う組織体制はあるか	全体	90.0%			81.5%	-9			
	看護	90.9%				77.8%	-13			
	検査	88.9%				75.0%	-14			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	87.5%				87.5%	0			
	5)課外活動に対する支援体制は整備されているか	全体	73.3%			74.1%	1			
	看護	90.9%				77.8%	-13			
	検査	66.7%				75.0%	8			
	工学	100.0%				50.0%	-50			
	事務	50.0%				75.0%	25			
	6)学生の生活環境への支援は行われているか	全体	76.7%	臨床検査学科では、臨床検査校友会による指定校推薦入学者の入学金給付制度の運用が開始した。アルバイト紹介も行っている。		77.8%	1			
	看護	81.8%				66.7%	-15			
	検査	66.7%				62.5%	-4			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	75.0%				100.0%	25			
	7)保護者と適切に連携しているか	全体	76.7%	個別対応が必要な学生に随時実施している。看護学科も同様。		85.2%	8			
	看護	81.8%				77.8%	-4			
	検査	66.7%				87.5%	21			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	75.0%				87.5%	13			
	8)卒業生への支援体制はあるか	全体	73.3%	看護学科では、ホームカミングデイを行った。2025年度より心電図検定3級取得に向けたカリキュラムが作成され、看護学科の希望者を実施される。臨床検査学科ではホームカミングデーの開催や京都府臨床検査技師会と連携した研修会などを実施することで支援体制を整えている。		70.4%	-3			
	看護	63.6%				55.6%	-8			
	検査	77.8%				62.5%	-15			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	75.0%				87.5%	13			
	9)社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	全体	90.0%			81.5%	-9			
	看護	81.8%				66.7%	-15			
	検査	100.0%				87.5%	-13			
	工学	100.0%				50.0%	-50			
	事務	87.5%				100.0%	13			
	10)高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・卒業教育の取組が行われているか	全体	73.3%			70.4%	-3			
	看護	72.7%				77.8%	5			
	検査	88.9%				62.5%	-26			
	工学	100.0%				100.0%	0			
	事務	50.0%				62.5%	13			

評価項目	部署	2024 自己評価		今年度の改善取組		2025 自己評価		来年度に向けた改善の方向性(案)	
		「適切」、「ほぼ適切」の回答率	2024自己評価で、「適切」、「ほぼ適切」の回答率が70%未満だった部署があるなど、要改善と判断した評価項目に係る改善取組の内容	「適切」、「ほぼ適切」の回答率	2024結果からの増減ポイント	2025自己評価で「適切」、「ほぼ適切」の回答が学校全体で70%未満だった 又は 2024比で10ポイント以上低下した評価項目に係る改善の方向性案			
6 教育環境	1)施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	全体	90.0%	臨地実習施設の確保に苦慮していることは変わらないため、整備が必要。	74.1%	-16	教育に用いる設備備品は専門性が高く必要性の評価が難しい面がある。厳しい経営状況の中で最善の対応となるよう、優先度や重要性を明確にした上で、修繕・更新を行い、学生が安心して学べる環境を維持する。		
		看護	81.8%		66.7%	-15			
		検査	88.9%		62.5%	-26			
		工学	100.0%		50.0%	-50			
	事務	100.0%	100.0%	0					
	2)学内外の実習施設、インターシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	全体	70.0%	臨地実習施設の確保に苦慮していることは変わらないため、整備が必要。	63.0%	-7			
		看護	72.7%		66.7%	-6			
		検査	44.4%		62.5%	18			
		工学	100.0%		50.0%	-50			
事務	87.5%	62.5%	-25						
3)防災に対する体制は整備されているか	全体	86.7%		88.9%	2				
	看護	81.8%		77.8%	-4				
	検査	100.0%		87.5%	-13				
	工学	100.0%		100.0%	0				
事務	75.0%	100.0%	25						
7 学生の受入れ	1)学生募集活動は適正に行われているか	全体	86.7%		85.2%	-2			
		看護	81.8%		88.9%	7			
		検査	88.9%		87.5%	-1			
		工学	100.0%		50.0%	-50			
	事務	87.5%	87.5%	0					
	2)学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	全体	90.0%		85.2%	-5			
		看護	81.8%		77.8%	-4			
		検査	100.0%		87.5%	-13			
		工学	100.0%		100.0%	0			
事務	87.5%	87.5%	0						
3)学納金は妥当なものとなっているか	全体	86.7%		81.5%	-5				
	看護	90.9%		77.8%	-13				
	検査	88.9%		87.5%	-1				
	工学	100.0%		100.0%	0				
事務	75.0%	75.0%	0						
8 財務	1)中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	全体	26.7%	学生確保のために、オープンキャンパスを再構築し、看護学科・検査学科・事務所で指定校廻りを行った。経済指標を事務所から出してもらい、オープンキャンパスや入学者数の目標値を共有した。臨床検査学科では第二臨床検査学科の3年制化や指定校推薦校の拡充、+αの資格指導を行い学生募集に繋げている。臨床工学技士専攻科の学生募集は指定校訪問を継続、大学訪問を増加させた。崇城大学と連携強化のため大学と同じ理事長が運営する文徳高等学校へ連携教育説明会が実施可能か打診中。	11.1%	-16	財政状況は大変厳しく、現状で低評価となるのはやむを得ない。学校が目指す方向性と見通しを教職員に示し、目的を共有して協働する組織づくりを進める。		
		看護	36.4%		11.1%	-25			
		検査	22.2%		25.0%	3			
		工学	50.0%		0.0%	-50			
	事務	12.5%	0.0%	-13					
	2)予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	全体	80.0%		74.1%	-6			
		看護	81.8%		55.6%	-26			
		検査	77.8%		87.5%	10			
		工学	100.0%		50.0%	-50			
事務	75.0%	87.5%	13						
3)財務について会計監査が適正に行われているか	全体	96.7%		96.3%	0				
	看護	90.9%		88.9%	-2				
	検査	100.0%		100.0%	0				
	工学	100.0%		100.0%	0				
事務	100.0%	100.0%	0						
4)財務情報公開の体制整備はできているか	全体	86.7%		88.9%	2				
	看護	90.9%		66.7%	-24				
	検査	77.8%		100.0%	22				
	工学	100.0%		100.0%	0				
事務	87.5%	100.0%	13						
9 法令等の遵守	1)法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営はなされているか	全体	93.3%		96.3%	3			
		看護	90.9%		88.9%	-2			
		検査	100.0%		100.0%	0			
		工学	100.0%		100.0%	0			
	事務	87.5%	100.0%	13					
	2)個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	全体	100.0%		92.6%	-7			
		看護	100.0%		77.8%	-22			
		検査	100.0%		100.0%	0			
		工学	100.0%		100.0%	0			
事務	100.0%	100.0%	0						
3)自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	全体	76.7%	2024年度に自己点検・自己評価を行う、低い項目について、考察・方向性を明らかにし、事業計画に反映した。連絡会議でSWOT分析を行い、課題と課題解決策を検討している。	88.9%	12				
	看護	63.6%		77.8%	14				
	検査	88.9%		87.5%	-1				
	工学	100.0%		100.0%	0				
事務	75.0%	100.0%	25						
4)自己評価結果を公開しているか	全体	70.0%	2025年度自己点検・自己評価を公表予定	70.4%	0				
	看護	72.7%		66.7%	-6				
	検査	88.9%		75.0%	-14				
	工学	100.0%		50.0%	-50				
事務	37.5%	75.0%	38						
10 社会貢献・地域貢献	1)学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	全体	76.7%	関係団体に対して研修や会議等で施設を貸し出している。	77.8%	1			
		看護	81.8%		66.7%	-15			
		検査	88.9%		87.5%	-1			
		工学	100.0%		50.0%	-50			
	事務	50.0%	87.5%	38					
	2)生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	全体	60.0%		40.7%	-19	検査学科では授業の中でボランティア活動を取り入れる工夫を行っているが、周知が十分でないため低評価となっていると考えられる。学生が社会体験の機会を得ることは必要であるが、経営再建が喫緊の課題である状況の中で、優先度は低く、当面は低評価もやむなしと考える。		
		看護	54.5%		44.4%	-10			
		検査	77.8%		25.0%	-53			
		工学	100.0%		50.0%	-50			
事務	37.5%	50.0%	13						
3)地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	全体	70.0%	「まちの保健室」を、地域住民が自らの健康増進について考える動機付けの機会とした。	70.4%	0				
	看護	63.6%		66.7%	3				
	検査	77.8%		50.0%	-28				
	工学	100.0%		100.0%	0				
事務	62.5%	87.5%	25						
全体意見	取り組むべき課題は、教育活動や学修成果分野の低評価項目である。教員の確保と教員の人材育成に課題がある一方で研修の機会があっても参加しない(参加できない)現状がある。労力が必要な学生が多い中、やってもやっても手ごたえがない、むしろ学生が生き生きと学べていない現状に疲弊するという悪循環が起きているように思う。好循環にするためには、カリキュラム評価を行い、現状に応じたカリキュラムや教育方法の見直しが必要ではないかと考える。								